

高知県高岡郡中土佐町

卓越した技術開発力 切削工具のリーディングカンパニー

高知県が過疎対策として工場誘致を行った際に、その第一号として切削工具メーカーとして1968年に従業員30名で創業。現在は50名を超え地域の重要な就業の場を提供。創業当初より技術基盤を確立するため、国内の大手メーカーや欧州を中心に海外メーカーとも技術提携を行う。これをベースに自社の技術や発想を組入れた切削工具、さらには刃物研磨機械等、独創性のある形状や機能を持った製品を開発、提供している。

●所在地	高知県高岡郡中土佐町上ノ加江2085番地2	●設立	1968年
●電話/FAX	088-954-0221/088-954-0170	●資本金	4,500万円
●URL	http://www.ryoco.co.jp	●従業員数	52人
●代表者	代表取締役 町田 淳一郎		



加工データ蓄積による製品開発や製品評価のスピードアップ

顧客ニーズは、より高精度かつ迅速化対応のための製品開発と改良が求められている。そのため、性能比較を行える立形マシニングセンタを導入した。これにより、切削工具の切削試験による回転数や負荷率、切屑飛散状況等を加工データとして蓄積・比較が可能になった。この加工データに基づき、顧客ニーズに対応した設計や開発が可能となり、開発精度の向上と開発期間の短縮化が図られることになった。このような開発環境の整備が、現在の競合他社との差別化や競争力強化の向上に結び付いている。



立形マシニングセンタ(NVX5080)

各種データの「見える化」による営業力・競争力の向上

同社の強みは、切削工具に関わる顧客個々のニーズや課題に対して、その解決方法を工具の開発や改良を通じて提案し、具現化していくことにある。前述のように各種データをデータベース化し、試作品や既存製品の改良に役立てる一方、競合他社製品や同社の従来品と提案製品のデータをグラフ等で「見える化」し、比較できる資料を作成している。これにより、同社製品が競合他社や従来製品より相対的な優位性を顧客に示し、説得力のある説明ができるようになり、収益力の拡大の源になっている。



切削試験状況

積極的・継続的な挑戦による新たな価値の創出

新たな価値の創出のために、切削工具以外に、工作機械と刃物をつなぐツーリング、あるいは個々の切削機器をトータルさせた切削システムの開発等を行っている。さらに、航空宇宙産業や自動車産業等で、今後の構造材として有力視されているCFRP（炭素繊維強化プラスチック）があるが、これは多くの課題を抱える難削材でもある。しかしながら、現在、大手メーカーの協力も得ながらCFRPに対応した切削工具の開発に取り組んでいる。必ずユーザーの期待に応えられる製品を開発できると確信している。



航空宇宙産業用 切削工具